高校２年生

国際理解と平和Ⅱ

佐藤俊樹・木下雅仁
近藤和雅・竹内史央
加藤容子・寺井　一

【抄録】 今年度も高校２年生では研究の柱を沖縄研究旅行におき、生徒たちは主体的に多くのことを学ぶことができた。そして、今後の課題として沖縄学習体験を“生き方を探る”上で、どのように生かしていくかの検証が必要であることが感じられた。

【キーワード】 国際理解・平和・キャリア

1　はじめに

今年度の高校２年生の総合人間科は、大テーマとして「平和・国際理解・人権」を掲げ、さらに６～８名のグループで小テーマを設定し、深く考えさせる取り組みを行った。附属学校での学習により培ってきた、「自ら主体的に学ぶ姿勢」をさらに伸ばすことを目標とした。

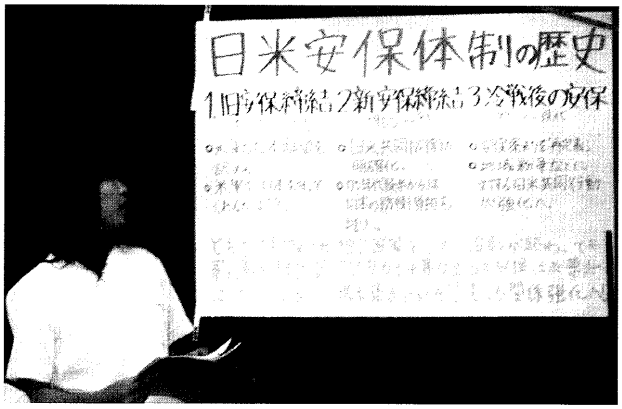
2　１年間のあゆみ

回	日	授業内容
1	4／14	オリエンテーション　概要説明
2	4／20	プレ研究準備①（グループ分け等）
3	4／27	プレ研究準備②（内容検討）
4	5／25	プレ研究準備③（内容検討）
5	6／8	プレ研究発表会（各ＨＲ）
6	6／15	研究旅行委員選出　発表会感想文提出
7	7／6	研究グループ結成　研究テーマ検討
8	9／7	研究テーマ・フィールドワーク先検討
9	9／28	映画「ＧＡＭＡ―月桃の花―」鑑賞
10	10／12	フィールドワーク先決定　質問検討
11	10／26	研究旅行前健康診断
12	11／2	フィールドワーク先報告会（各ＨＲ）
13	11／9	研究旅行最終準備　合同ＬＴ
	11／14～17	沖縄研究旅行
14	11／20	礼状書き　フィールドワーク発表準備
15	12／7	フィールドワーク発表会（各ＨＲ）
16	12／20	合同ＬＴ　研究集録執筆ガイダンス
17	1／25	研究集録原稿〆切
18	2／15	高３「生き方を探る」準備
19	3／15	高１への沖縄フィールドワーク発表

隔週木曜日に設定された総合人間科の時間だけでは足らず、ＬＴの時間も利用して取り組んだ。従来の高校２年生では行っていなかった高３の総合人間科の準備の時間を２月にとり、進路系統別グループ分け調査を行った点が今年度の目新しい点である。

3　プレ研究

新学年が発足してすぐ、例年どおり沖縄を知る準備としてプレ研究を行った。班員は６～８名で、出席番号に従って構成し、研究テーマは３クラスとも、①文化、②食文化、③産業、④自然、⑤沖縄戦、⑥基地問題の６つから抽選で決定した。発表は模造紙やプロジェクタで行う方法がほとんどであったが、中には寸劇を取り入れた班もあった。生徒一人ずつに評価用紙を配布して他グループの発表を聴いたコメントを書けるようにし、その後の学習に還元できるように工夫をした。



プレ研究発表のようす

4　映画「ＧＡＭＡ　―月桃の花―」鑑賞

この映画は1995年、沖縄戦終結50周年を記念して製作されたもので、本校では沖縄研究旅行前に高校２年生全員とその保護者の希望者で鑑賞することが通例になっている。研究旅行でガマに入ることになっている生徒達は、この映画を観ることでそこがどんな場所であるかを否応でも知ることとなり、平和学習の動機づけを一層強める効果がある。本年度もしかりであった。また、主人公のモデルが研究旅行第１日に講演を聴く安里要江さんであることも大きな意義があった。実際講演時には、早い集合時刻や多くの移動で疲れているにもかかわらず、生徒達は集中を切らさず熱心にメモをとりながら聴き入っていた。

ただ、製作されて数年が経ってテープの状態が年々劣化し、前年までは上映中に中断することがしばしばあった。そこで本年度は映画配給元に直接交渉し、状態の良いテープで上映することができた。

5　研究旅行行程

(1)行程の概要

11月14日（火）

中部国際空港－那覇空港－首里城（見学）－ひめゆりの塔（見学）－糸数壕－那覇宿舎（安里要江さん講演）

11月15日（水）

那覇宿舎－嘉数高地（平和ガイドによる説明）－平和記念公園（韓国人慰霊の塔・平和祈念資料館・平和の礎）－魂魄の塔・米須海岸（説明）－那覇宿舎（平和メッセージ執筆・エイサー体験）

11月16日（木）

那覇宿舎－フィールドワーク（ジャンボタクシーでの班別行動）－恩納村宿舎

11月17日（金）

恩納村宿舎－道の駅嘉手納（嘉手納基地遠望）－那覇空港－中部国際空港

(2)記録係の感想より

研究旅行班の中に記録係担当者を１名以上設けた。その生徒達が研究集録に残した記録のうち、感想を述べた部分を抜粋してみる。

○糸数壕（アブチラガマ）

ガマの中は光もなく真っ暗で、私たちは空気も光も当たり前のように毎日いただいているが、この当たり前の事がいかにありがたい事だということをとても感じることができた。

○安里要江さんのお話

現在の私たちは沖縄戦の時代とは比べようもないほど、平和な生活を当たり前のように送っていることであろう。しかしながら、あの時代の中でどれほどの人が苦しみ、亡くなっていったのかを忘れてはならない。その人々の苦しみを、そして私たち自身が今ここに生きていることの大切さを受けとめながら、これからの人生を歩んで行けたらよいと思う。

○エイサー体験

今回は実際にエイサーについてゆっくり解説していただくという機会は持てませんでしたが、エイサーを実際に体験してみることによって、同じ日本でも本土とは一風変わった沖縄の文化を自分の身をもって味わい、楽しむことが出来たことと思います。

親切なご指導に、感謝！

○嘉手納基地

今回の研究旅行で僕が感じたのは基地の強烈な二面性です。沖縄の人々は「基地があると普通の生活が出来ない」「基地がなければ生活が成り立たない」というジレンマを抱えながらこれまで過ごしてきたのだなと思いました。これから先、沖縄県が目指さなければならないのは基地なしで自らの生活を維持していくことだと思います。

6　平和メッセージ

沖縄に到着し、戦跡を巡って戦争体験者や平和ガイドの話を聴くことで、生徒達は沖縄という場所の重大さをいやが上にも知ることとなる。研究旅行２日目の夕刻には、一人ひとりが沖縄に来て感じたことを「平和メッセージ」として書き記した。その中から数人のメッセージをあげてみる。

●私たちがすべきことは戦争を体験した人の気持ちを理解することではない。戦争を体験していない私たちには絶対にできないことだからだ。私たちがすべきなのは、私たちには理解できない想像を絶するような体験をし、ひどく心を痛めた人がたくさんいるという事実を知ることなのだ。そして、その事実をしっかりと胸に刻んで、もう戦争を決して繰り返さないと誓い、今後の世界平和のためにはどうすればよいかを考えるべきだ。究極的には一人ひとりが平和でいられる全人類の平和を創りたい。

●「平和」とは「戦争をしない、人を傷つけないことだけでなく、人を愛し生きること」と旅行に行くまでは思っていました。しかし、今回そんな単純な言葉では語れないと感じました。今、僕たちの学んでいる「平和」は戦争で受けた痛み、つまり被害者としてだけでなく、加害者の立場を知る日本人が今後同じ失敗を繰り返さないために学んでいます。これはすばらしいことであり、これからも守っていかなければならないことだと思います。この伝統を大切にする人でありたいです。

●ひめゆりの塔では、涙で写真や資料が読めなくなるく

らいすごく悲しくて怖かった。目を閉じると、悲鳴や銃声、怒鳴り声などがすごく想像できて、・・・・

目を開けると、今は本当に平和だぁって思った。世界平和を願う！

●教科書や本、インターネットの活字で勉強するのではなく、当時の人々と同じ場所で彼らのことを考えてみた。

「どんな思いでここに隠れていたの？」

「大切な人を失うってどんなに悲しいのだろう？」

「私だったらどうなっていた？こんな状況に絶えられていた？」

考えることによって、自分がとても幸せだということに気付いた。あのころの少女たちは生きることさえ難しかった。たった60年、時代が違うだけなのに・・・。私はこれから、全力で生きていきたい。

●私は戦跡を見て、死ぬことには二種類あると思った。一つは、身体的な死。もう一つは精神的な死だ。学徒隊として働かされていた女性や、家族や友達や恋人を亡くした人は、きっと身体は動いていても心は死んでしまっていたと思う。精神的に死んでしまうと人は、戦争があるかぎり増えていく。もちろん身体的にも同じだ。

１日も早く世界中の人が自分の命を生き通せる世界になると良いと思う。

●60年前、自分達日本人の犯した戦争というあやまち。その戦争をしてしまった日本人にしかできないことがあるのではないでしょうか？本当の戦争の恐ろしさを知っているのは日本人ではないでしょうか？今、生きている僕たちにとって、世界中の平和を作っていくためにしなくてはいけないのは、その恐ろしさ、怖さを伝えていくことです。高校生に出来る事は、小さいことでしかないかもしれません。しかし、今回の旅行で感じたことを忘れずに覚えていくことが、僕たちにとって出来る最高のことだと思います。

7　フィールドワーク

今年度も沖縄研究旅行の３日目には班別のフィールドワークを行った。その成果は各クラス単位での発表会で披露され、１班あたり８ページの研究集録にまとめられた。以下がその概要である。

（Ａ組）

１班　テーマ；How about OKINAWA!?
訪問先；ＮＰＯ法人「アクアプラネット」
琉球大学法文学部国際言語学科
まとめ；詳しいお話しや現地の人のリアルな声が聞けたので、大変貴重な体験になりました。

２班　テーマ；基地と県民と私たち
～実際、県民への影響どうなの？～
訪問先；沖縄県庁知事公室基地対策課
嘉手納町議会基地対策特別委員会
まとめ;基地問題は県レベルではなく国レベル、世界規模で考えるべきです。

３班　テーマ；Art & Music of Okinawa
訪問先；沖縄県立芸術大学
・美術学部デザイン工芸科
・音楽学部音楽学専攻
まとめ；始まる前は、沖縄でも勉強なんてと弱音を吐いていましたが、終わる頃には、もう終わり？、とさえ思ってしまうほど珍しい話ばかりでした。

４班　テーマ；沖縄の食文化と長寿危機
訪問先；沖縄の食を考える会
琉球大学教育学部家政教育学科
まとめ；沖縄県ではまだ健康づくり運動の社会的認知度は低く、取り組みを一層強化していかないと短命県になってしまうかもしれない。

５班　テーマ；僕たちは見た!　紅いもの旨さ、県庁の熱さ
訪問先；沖縄県庁観光企画課
株式会社お菓子のポルシェ
まとめ；地域ぐるみでの協力が、沖縄をより活性化させているということがよくわかりました。

６班　テーマ；沖縄の農業
訪問先；ＪＡおきなわ　南部地区営農センター
伊豆味パイン園
まとめ;農家数の減少や自然災害などの苦労を、農家の努力で乗り越えて成り立っていることがわかった。

（Ｂ組）

１班　テーマ；沖縄戦
訪問先；平和祈念資料館，ひめゆりの塔
喜屋武岬
まとめ；私達は過去日本が戦争をやってしまった事、それにより罪のない人々が命を落としたことをしっかりと胸に刻み、二度とこのような事が起きない、起こさせない未来をつくっていきたい。

２班　テーマ；心に太陽を　唇に唄を
訪問先；照屋三線店
沖縄国際大学総合文化学部日本文化学科
まとめ；何百年もの間、人々に愛され続け、そして進化していった芸能。その片鱗にふれ、自分の感覚が刺激される旅行でした。

３班　テーマ；沖縄の食文化と歴史

訪問先；琉球大学教育学部生涯教育コース
第一牧志公設市場組合副組合長
まとめ；資料だけではわからない食文化の歴史にもふれることができて、これからの食について自分で考える機会を与えられたような気がした。

4班　テーマ；復興へのミチシルベ
訪問先；沖縄県庁文化振興課
沖縄タイムス編集局
まとめ；沖縄の人々が苦しんだのは戦時中だけではないと知りました。戦争が終っただけでは平和にはならないということを、たくさんの人に知ってもらえるといいと思います。

5班　テーマ；Don't think! Feel.
～考えても始まらない感じる沖縄の産業～
訪問先；国際通り商店街振興組合連合会
ＪＡ沖縄　農家（２軒）
まとめ；沖縄の産業を１つのキーワードで表現するのならば、“活力”という言葉がふさわしいのではないでしょうか。

6班　テーマ；OCEAN
～人がしたこと　すべきこと～
訪問先；ウェストマリン株式会社
琉球大学理学部海洋自然科学科
まとめ；環境を単に「改善」するという考えではなく、「本来のあるべき姿」に戻すという視点を持つことが重要だということに気付かされました。

（C組）

1班　テーマ；基地から見る
―沖縄の人が思う基地　私達が思う基地―
訪問先；宜野湾市役所
読谷村役場総務企画部企画財政課
まとめ；沖縄の基地を知ることは、同じ国、同じ言語を話す者として知る必要があります。

2班　テーマ；べにいも
訪問先；沖縄県農林水産部中部農業改良普及センター
農業生産法人　アグリよみたん苑
まとめ；栄養豊富で健康食品としても評価が高い紅芋は、開発者や農家の方々の長年の研究により、全国への出荷が実現しようとしています。

3班　テーマ；昔話とシーサーと
訪問先；涌田陶器　那覇市立壷屋焼物博物館
沖縄伝承話資料センター
まとめ；どんどん消えていってしまうかもしれない伝承話が一つでも多く未来に伝わればいいなと思いました。

4班　テーマ；米軍から見た沖縄戦と、対馬丸
訪問先；日系三世の日本語通訳兵の方
津島丸記念館　津島丸生存者の方
まとめ；私が今回学んだことは、戦争の勝者と敗者、両方ともが犠牲者であるということだ。研究旅行後、新聞やニュースを見て考えることが増えた。それは、ただ学ぶだけではなく、私たちがこれからの世界の平和の担い手であることを改めて気づかせてもらえたからである。

5班　テーマ；城（グスク）から見る沖縄の歴史
訪問先；斎場御嶽（南城市教育委員会）
座喜味城趾（読谷村歴史民俗資料館）
まとめ；沖縄の歴史を綺麗な景色と共に学べてすごく満足のいく充実したフィールドワークでした。しかし、こんなところにも戦争の爪痕が残っていることがすごく記憶に残った。

6班　テーマ；自然と一緒に生きること
訪問先；沖縄県庁防災危機管理課，河川課
ブセナ海中公園海中展望塔
まとめ；災害に負けない家を造ったり、被害を最小限にとどめるための訓練や対策を立てたり、サンゴを守るためにできることから始めたり、自然に対してできることは人それぞれです。

8　高３「生き方を探る」準備

研究集録原稿がすべて集まった２月、次年度の総合人間科を見越して、進路希望別グループ分け調査を行った。例年高３の４月に行っているものであるが、フィールドワークまで時間が少なく慌ただしいもののになってしまう反省を生かした試みであった。実際、新年度の始めにグループ分けを発表し、フィールドワーク先の検討に時間を多く割くことができた。

9　おわりに

高校２年生の総合人間科には二重の構造がある。一つは、「国際理解と平和」の大テーマのもとで沖縄学習を通して平和について学ぶこと、もう一つは、そうすることで一人ひとりの生き方を考えるということである。生徒たちは、４日間という短い時間ではあったが、研究旅行に行って現地を体験することで、教室にいるのとはまた異なった学習をすることができた。このことは各班のフィールドワークのまとめからも伺える。一つ目の構造についてはしっかりできている。

問題は二つ目の構造である。総合人間科の大テーマでは「生き方を探る」は高校３年生に設定されているが、その内容は大学や職場にフィールドワークをするというように直接的なものとなっている。その直前段階としての高校２年生では、「生き方を探る」上での心構えや態度を身につけさせることが重要である。総合人間科にキャリア教育の要素が付加されて数年になるが、高校２年生段階での検証はまだ行われていない。これからの課題としたい。

（文責：佐藤俊樹）